

動物実験に関する検証結果報告書

新潟医療福祉大学

動物実験に関する外部検証事業

(公益社団法人日本実験動物学会)

2026年3月

新潟医療福祉大学

学長 西澤 正豊 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価報告書に対する検証結果を通知します。

公益社団法人日本実験動物学会

理事長 小倉淳郎

対象機関：

申請年月日：2025年5月22日

訪問調査年月日：2025年11月18、19日

調査員：笹岡俊邦、越本知大

検証の総評

新潟医療福祉大学は2001年開学の、保健、医療、福祉、スポーツ分野6学部16学科と大学院を有する国内有数の医療福祉・スポーツ系の大学である。マウス、ラット、デグー、マーモセットを対象として動物実験を実施しており、文部科学省の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」に準拠した「新潟医療福祉大学動物実験実施規程（以下「動物実験実施規程」という。）」を策定し、動物実験計画書の審査、承認、結果報告、施設等の調査、教育訓練、自己点検・評価、情報公開等が、学長の下に設置された動物実験委員会を通して適正に実施されている。また実験動物の飼養保管についても、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（以下「飼養保管基準」という。）」を遵守して適正に行われている。2023年に公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という。）に入会し、2024年に日本実験動物学会の外部検証に向けた現地個別相談を受けている。これら近年の積極的な取組から、大学として動物実験の機関管理体制の整備に尽力する姿勢は高く評価できる。今後も適正な動物実験の体制を構築し、更なる改善に努められたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程を定めている。<input type="checkbox"/> 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 機関内規程を定めていない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>基本指針及び飼養保管基準に則した動物実験実施規程及び「新潟医療福祉大学動物実験委員会規程（以下「動物実験委員会規程」という。）」が定められ、学長の諮問機関として動物実験委員会が設置されている。これら規程類は、公私動協の機関内規程の雛形を参考として改正されている。したがって、機関内規程について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。<input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>動物実験実施規程に記載内容の重複があることから、細部を精査して条項を整理するよう検討されたい。</p>

2. 動物実験委員会

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会を設置していない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験実施規程及び動物実験委員会規程に則した動物実験委員会が設置され、基本指針が定める3要件の委員によって構成されている。したがって、動物実験委員会について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されているが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 動物実験委員会は設置されていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。
- 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「動物実験計画書」「動物実験計画書の変更／追加承認申請書」「動物実験終了・中止報告書」「動物実験結果報告書」「飼養保管施設設置承認申請書」「動物実験室設置承認申請書」「飼養保管施設／動物実験室廃止届」の各様式が定められ、動物実験計画の立案、審査、承認、実験結果の報告及び改善の指導などを実施する体制が整備されている。したがって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。
- 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

「新潟医療福祉大学化学物質管理規程」及び「新潟医療福祉大学遺伝子組換え実験安全管理規程」が整備されている。また、アデノ随伴ウイルスベクター(AAV)による遺伝子導入実験は、遺伝子組換え実験安全管理委員会で審査され、動物へのX線照射実験は、関連法規や学内規程に基づき行われている。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。

<input type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>病原微生物を用いる動物実験と放射線を用いる動物実験の実施体制について、動物実験委員会と関連委員会等の中で情報を共有されたい。また、動物の麻酔について最新の情報を入手して学内に周知するとともに、麻薬研究者免許に関する行政手続きは、動物実験委員会若しくは大学事務局で包括的に管理されたい。</p>

5. 実験動物の飼養保管の体制

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>従来からげっ歯類飼養保管施設として設置されていたマウス／ラット飼育室4室に加え、2023年に新造された別棟にデグーとマーモセットの飼養保管施設がそれぞれ新設された。全ての飼養保管施設は学長の承認を受け、管理者と実験動物管理者が配置されている。また、施設ごとに飼養保管マニュアル、事故対応マニュアル、緊急時対応マニュアル、火災対応マニュアル、危機管理初動マニュアル、緊急な動物対応マニュアル、清掃・退出マニュアル、地震対応マニュアル、動物の搬入マニュアル、入室マニュアル等が整備されている。したがって、実験動物の飼養保管の体制について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>従来から設置されているマウス、ラットの飼養保管施設は、飼育室ごとに複数の研究グループが個別利用していることから、実験動物管理者の下で一元的な飼養保管体制を構築して運用することが望ましい。</p>

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

<p>学生実習で用いるウシガエルについては、特定外来生物法に従って担当教員が自治体に申請し、適切に管理されているが、機関として確実に管理されたい。</p>

II. 実施状況

1. 動物実験委員会の活動状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>動物実験実施規程及び動物実験委員会規程に則した動物実験委員会を組織して、動物実験計画書を審査し、学長により承認されている。2024 年度には 26 件の新規計画書の審査を含めて、委員会が 13 回開催されており、委員会議事録等の事務的記録も保存されている。したがって、動物実験委員会の活動状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>動物実験計画書の麻酔方法や安楽死処置の方法は、海外を含めた最新情報を参考にして審査されたい。</p>

2. 動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>基本指針及び動物実験実施規程に基づき、動物実験計画書の立案、審査が行われ、2024 年度には 26 件の計画書が新規承認されている。動物実験計画書の承認期間は、4 年以内としている。動物実験結果報告書、経過報告書、実験動物飼養保管状況の自己点検票により、動物実験委員会は動物実験の実施状況を把握している。したがって、動物実験の実施状況について自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>動物実験結果報告書は、動物実験の自己点検票と併せて毎年の提出を推奨する。</p>

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。<input type="checkbox"/> 該当する動物実験を行っていない。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>安全管理に注意を要する動物実験として、遺伝子組換え動物使用実験、ウイルスベクター投与による感染実験、動物へのX線照射実験、化学物質投与実験が実施され、麻酔薬として麻薬や向精神薬が使用されている。これらの実験はいずれも適正に実施され、事故等の報告もない。したがって、安全管理に注意を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。<input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない。
<p>4) 改善に向けた意見</p> <p>飼養保管施設から動物実験室への動物の移動方法について、委員会で標準化して実験者に周知されたい。また、関連する委員会と動物実験委員会との情報共有について検討されたい。</p>

4. 実験動物の飼養保管状況

<p>1) 機関による自己点検・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検・評価の妥当性</p> <p>マウス、ラット、デグー、マーモセットの飼養保管施設が設置され、各施設の飼養保管手順書、各種マニュアル(施設への入室、清掃・退室、動物の搬入、緊急な動物対応、火災対応、地震対応、避難経路、傷病者対応/緊急時初動対応、危機管理初動等)に従い実施されている。「実験動物飼養保管状況の自己点検票」が提出され、購入記録、飼育管理記録も適正に保存されている。全ての動物種において、定期的な微生物モニタリングが実施されている。したがって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。</p>
<p>3) 検証の結果</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。<input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。<input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

マウスラットの飼養保管施設では、研究室が個別にケージの洗浄と滅菌を行っていることから、実験動物管理者の主導の下で日常の管理作業にばらつきがないよう、マニュアルに照らし合わせて標準化することを検討されたい。また、地震等の非常時に備えて飼料や水を備蓄することを推奨する。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

マーモセットとデグーの飼養保管施設は新しいが、げっ歯類の飼養保管施設には老朽化した部分も見受けられる。しかしながら空調、給排水等の設備を含めて適正に維持管理されている。全ての飼育室の温湿度はモニターされ記録されている。法定点検が必要な設備は有していないが、小型オートクレーブは毎年自主点検され記録も保存されている。したがって、施設等の維持管理の状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

各飼養保管施設の維持管理状況について、動物実験委員会が定期的に視察し、把握することが望ましい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

2024 年度に教育訓練資料を刷新して教育内容の大幅な充実が図られている。また 2025 年度からは全ての動物実験実施者に毎年の受講を義務づけ、受講後の確認テストが実施されている。公私協主催の「実験動物管理者の教育訓練」にも動物実験委員会の委員 2 名が参加している。したがって、教育訓練の実施状況について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。

- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

最新の麻酔方法・安楽死処置方法に関する情報を、教育訓練内容に含めることを推奨する。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

自己点検・評価が、毎年適切に実施され、自己点検・評価報告書を含めて機関内規程、動物実験委員会構成、各種様式、飼養保管施設・動物実験室設置状況、動物種別飼養総匹数、委員会開催歴、動物実験計画書審査結果、教育訓練実施内容がウェブサイト上で公開されている。これらは国立大学法人動物実験施設協議会、公私動協が要請する情報公開項目を網羅している。したがって、自己点検・評価、情報公開について、自己点検・評価の結果は妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針と飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

動物の飼養数と年間の使用数の計数方法を、委員会で一本化して周知することが望ましい。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

動物実験の管理について、事務組織の積極的な支援が行われ、関連教員との間での密接な連携体制が構築されていることは高く評価できる。さらに、学長から「実験動物の飼養保管施設の将来的な統合も視野に入れている。」との発言があり、動物実験の実施環境の更なる向上に向け、大学として高い意識をもって取り組んでいる状況がうかがえる。

日実動学-外検発 第R8-3号-証

検証実施証明書

新潟医療福祉大学
学長 西澤 正豊 殿

貴機関は 公益社団法人日本実験動物学会
外部検証委員会による「動物実験に関する
外部検証事業」による自己点検・評価を行い
その結果に対する検証を本委員会が実施した
ことを証します

2026年3月16日

公益社団法人日本実験動物学会
理事長 小倉 淳郎



No.2026-3

Japanese Association for Laboratory Animal Sciences



CERTIFICATE

President Prof. Masatoyo NISHIZAWA
Niigata University of Health and Welfare

Dear President

In every Japanese institution under the jurisdiction of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT, self-inspections and evaluations for the conduct of animal experiment and related activities must be verified by a third party, independent of the research institution concerned.

Japanese Association for Laboratory Animal Science (JALAS) certifies that Niigata University of Health and Welfare received "Assessment and Verification Program for Care and Use of Laboratory Animals in 2025".

Sincerely yours

16 March, 2026

Atsuo OGURA, Ph. D., D.V.M
President
JALAS

Masami MORIMATSU, Ph.D.,
D.V.M., DJCLAM
Chairman
Assessment and Verification
Committee, JALAS